

「成層圏プラットフォーム」計画

来月、大樹で通信試験

飛行船に代わり航空機利用

【大樹】国が計画する無人飛行船による通信放送・地球観測システム「成層圏プラットフォームフォーム」(SPF)の研究開発に伴い、飛行船を追跡・管制するシステムの通信機能を確認する実証試験が12月、大樹町多目的航空公園などで行われる。飛行船の代わりに装置を載せた小型航空機を飛ばし、上空と地上とで相互に試験信号を送受信するなど、通信性能を試し、各種データを取得する。

(浅井文人)

SPFは将来、日本の上空約20キロの成層圏に、全長250メートルの巨大な飛行船を千数機浮かべ、人工衛星のように通信や放送、地球観測に役立てようとする計画。今回の通信試験は、その前段階に当たる定点滞留飛行試験(来春、大樹)に先駆けて実施。同飛行試験で使う60メートル級の無人

飛行船に搭載する通信機器の性能を試す。通信試験は、SPFの通信部門

を担当する通信・放送機構(TAO、本部東京)が12月6日から22日まで行う。1日に1、2回のフライト試験を予定している。同公園にある飛行船用格納庫の上部に設置されたアンテナから、試験用信号を送信。上空を飛行する実験用小型航空機

「ドルニエ」に積まれた装置で受信できるかを調べる。その逆も行い、通信機能の信頼性を確かめる。また、ドルニエを最長で根室地方などまで飛ばし、同公園の地上装置と通信可能な距離や高度の限界域も調査する。